

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

日台稲門会 会報 第11号



発行所：日台稲門会事務局
神奈川県茅ヶ崎市南湖5-15-5(小野間方)
TEL・FAX0467(83)2611
編集委員会
発行人：石川 公弘
編集責任者：齋藤 晃

村野前名誉会長が逝って、初めての春が巡ってきました。石川会長代行に、故人の想い出を語って頂きました。



村野賢哉・名誉会長を追悼して

日台稲門会会長代行 石川 公弘

日台稲門会の名誉会長・村野賢哉さんは、二〇〇七年一月三日、享年八五歳で天に召されました。生前、種々ご指導をいただいた者の一人として、心からの追悼の言葉を綴ります。

私が村野賢哉さんに初めてお目にかかったのは、確か一九九八年のことで、日台稲門会(当時は関東台湾稲門会)の会合が、早稲田大学の近くの小さな料理屋の二階で開かれたときのことです。その時の自己紹介で、村野さんが台湾生まれであること、お父上が台湾で公学校の校長先生をされていたことを知りました。

村野賢哉と言えば、私たちの年代の者には、ニユース解説者として、NHKの顔といえる存在でした。村野さんのニユース解説は、主に科学や安全面のものが多かったと記憶していますが、特に宇宙ものは、村野さんの独壇場でした。村野さんを飛び切り有名にしたのは、一九六九年七月二〇日の、アポロ11号による人類初の月世界到着です。村野さんはこの時の素晴らしい報道で、国際報道活動に顕著な貢献をした人に贈られる、ボーン国際記者賞を受賞されました。

アポロ13号がトラブルを起こし、地球に無事帰還できるかどうかの瀬戸際の報道や解説も、記憶に残っています。アポロ13号が無事に地球へ帰還するには、司令塔の突入角度が非常に重要なこと、浅すぎると厚い大気層に弾かれて宇宙のかなたへ飛んで行ってしまい、深すぎると途方もない摩擦熱で燃え尽きてしまうことを、私たちは初めて知りました。村野さんは、こうしたことを実にわかりやすく解説してくれる人でした。

日台稲門会を代表して、小野間幹事長と弔問にお伺いしたとき、天皇・皇后両陛下へ村野さんがご進講をなされていたことを初めて奥様から伺いました。おそらく両陛下も、村野さんのわかりやすいご説明に満足されていたものと拝察します。ご進講と言えば、台湾の李登輝前総統に、日本の新幹線の安全性について、村野さんがお話しされたことは伺っていました。台湾の新幹線が、日本方式に変更される一因になったのかも知れません。

日台稲門会の会長に就任されてから、村野会長は台湾との交流に力を注がれ、「日台稲門交流の集い」の開催を提案され、それを強力で推進されました。台湾校友会との交流が一段と活発に進むようになったのも、村野さんの大きな功績と言えるものです。また、村野会長が有力メンバーである日本プレスセンターで、役員会も行われるようになりました。

二〇〇五年一〇月一・二の両日、私は「台湾少年工との60年」というテーマで、NHKのラジオ深夜便「心の時代」に、出演させて頂きました。早朝の放送が終了すると同時に突然、村野さんから電話をいただき、「非常にわかりやすく面白かったよ」というおほめの言葉をいただき、感激したものです。会長はこんな早くから起きていられるのですか」と、お聞きしたら、「私もNHKマンだから二四時間、ラジオはかけっぱなしにしておくのです」と言われました。後日この番組が、早朝でも常時一〇〇万のファンに支えられていることを知りました。

早稲田大学は昨年、創立一二五周年を盛大に祝いました。村野さんは奥さまとお子息の幸哉さんに押されて車椅子で出席された元気に「都の西北」の大合唱に参加されたとのこと。しかし、これが人生最後の外出になりました。台湾を愛し、早稲田を愛し、科学を愛し、NHKを愛した村野賢哉・名誉会長。折々のご指導の言葉を思い出しながら、追悼の言葉といたします。

台湾研究所所長の江夏先生に寄稿
頂きました。先生は大学創立一二五
周年記念事業募金の推進役を務めら
れました。

日台交流のさらなる発展を祈念して

早稲田大学台湾研究所所長

江夏 健一

この原稿は、滞在先台北のホテルで執筆
し、eメールで編集担当の齋藤様にお送り
する予定です。

今回は、二つの目的を果たすために、白
井総長をはじめとする大学関係者総勢五〇
余名が大挙して台北を訪問することとなり
ました。

その目的の一つは、亜東関係協会の陳鴻
基会長の熱烈なる要請を受けて、合宿先の
沖繩から約四〇名の野球部の主力選手が台
北に飛来し、台湾の大学と親善試合を二ダ
ームすることとなり、その応援に駆けつけ
たいです。このようなスポーツ交流が、
台湾在住の早稲田大学卒業生のみならず、
日系企業関係者とそのご家族、台湾の野球
ファン、そして台湾の青少年にとって、関心
が高く、意義深いイベントとなることを切
に希望します。

もう一つの目的は、大学が第二の建学を
スタートするにあたって、白井総長のイニ
シヤティブのもと「アジアにおける知の共
創」をスローガンに、国際交流のための海
外拠点をアジアの主要な都市に開設してい

くという戦略展開の一端を担うものです。
大学はこれまでにすでに北京、上海、シン
ガポール、バンコクに事務所を開設し、さ
まざまな活動を展開してまいりました。そ
してこのたび台北でも学生交流、教員研究
交流の支援、そして産業界とのコラボレ
ーションの促進を目的とする事務所を開設す
べく、その可能性、とりわけ台湾からのワ
セダに來る留学生を対象とする奨学金設置の
可能性を検討するために参つたしだいです。
ただし台北事務所は、単なる早稲田大学
のためだけの窓口にと終わることなく、より
広く、またさまざまな形で、日台間の経済・
教育・文化交流を促進しようとするもので
あります。

日台稲門会に盤石の礎を築かんと
日本に戻ってきた男、登場です。

日本人会 工商会活動にて感じた
日台関係の重要性

岩永 康久 (昭和四十四年政経卒)

台湾には二回計二二年駐在し、二回目は
台湾住友商會社社長として七年間勤務し
ました。

その間、台湾日本人会会長、台北市商工
會理事長を、他に日本人学校運営委員長、
基金運営委員長等を務めました。特に日台

関係の重要性を痛感し、日本人会の中に新
しく「日台交流部会」を立ち上げ委員長も
勤めました。台湾の方々の対日親近感「台
湾の人情味」に触れ、以下痛感した次第で
す。即ち「自由民主で親日台湾が日本の南
端に存在するから日本の安定が保たれてい
る、一方、我々日本人はそのありがたさ、
及び台湾の切実な想いを理解していない」
と。以下心に残った事を述べてみます。

*台湾日本人会

重要な仕事の一つが日本人学校の運営で
す。台湾における日本人学校の特徴は国際
結婚、即ち日本人・台湾人を親に持つ生徒
の多さです。小生がアメリカに駐在した時
はほとんどすべてが日本人を両親に持つ子
女でしたが、台湾では、台北四〇%、高雄五
〇%、台中一八%が国際結婚の子女でした。
一般の海外日本人学校では殆どが日本人の
両親を持つ子弟ですが、まさに台湾は例外
的存在と言えます。これだけの国際結婚子
女の比率があれば、いろいろな問題が発生
するものです。しかし、日本のような教育
現場の荒廃はなく、日本の私立学校と公立
学校の良い面を併せ持った自由な素晴らしい
校風を持っています。生徒達も仲が良く
世界でも珍しい日台の特別な関係が生み出
したものと言えます。

「日台交流部会」では「懐かしい日本の
歌会」等の色々な公演を協賛しましたが、
特に台湾のお年寄りには目を潤ませて一緒
に「ふるさと、荒城の月」などを口ずさむ光
景が随所に見られました。

高校生の発表会では「哈日族」と言われる若
者が日本のポップスを歌ったり、日本語劇
やダンスをしたり賑やかで、三千名ほどが

祝 早稲田大学校友会日台稲門会
会報第11号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處
代表 許 世 楷

東京都港区白金台5-20-2
電話 03(3280)7811

参加していました。ある日本語の得意な高校生が「私は浮かれた哈日族ではない。最初は日本のヤングの歌が好きになったが、今では日本の文化も好きになった。大学でも日本文学方面へ進みたい」と熱っぽく語っていました。お年寄りの親日はご存知通り、今後は若者同士の交流をどう深めていくかが課題です。

大相撲の台湾場所は二〇〇六年八月に実現しましたが、大入り満員の好評でした。特に台湾人のおじいさんを持つ千代大海には声援が大きく、夕食の席で隣り合わせに座りましたが、「自分のルーツが台湾にある事を今更ながらに認識した」としんみりと漏らしていました。彼は中学の頃、台湾人のお爺さんを持つているという事で辛い思いをし、ぐれかかった(番長だった)ようですが、それだけに感慨深いものがあつたようです。

一方、台湾の多くの方々が待ち望み実現していないのが「NHKのど自慢」です。台湾だけでも六千名以上の署名がなされ、日本を合わせると三万を超えたと聞いています。関係者の協力を得て、NHKに働きかけましたが、中国を念頭に置いた思惑があつたようで、未だ実現していないのが残念です。

***日本工商会**

工商会の中にはいろいろな組織・活動がありますが、一つの委員会として「基金運営委員会」があります。お世話になつてくる台湾に社会還元すべきと言う事で、一〇年前に台湾に進出している日系企業に献金を依頼し、三千万円(一億円)の基金が設立されました。毎年、金利分約百万円を使

つて、お世話になつてくる台湾社会に還元し寄付を行うとの前提です。この基金から、日本語教育をやつてくる大学・高校、老人ホーム、知的障害施設、非行青少年施設等へ寄付をして来ました。金額は小さなものですが、草の根友好の中で心温まる触れ合いが随所にありました。

***日本軍属台湾人の悲哀** 工商会への直訴
以下趣旨にて工商会に手紙が届きました。
「私は台湾人。日本軍人として第二次世界大戦に参加したが、戦後補償については日本政府からもインフレ率を無視したような補償提案しかなく、これを受けていない人が多い。一方台湾政府からは日本軍属の台湾人には補償は出来ないと何等保護はない。八〇歳を越え生活に苦しんでいる人も多い。政府が出来なければ民間の工商会が主体となり、何か出来ないか」と言つてもです。「台湾に渡つてきた中国国民党軍人には国民党政権により手厚い保護がなされ、今でもその厚い保護が続いている。一方日本軍属台湾兵は日本兵として国民党軍と戦つた立場に敵兵であり、なんら補償はない。自分たちは昔の祖国日本からも、現在の祖国台湾からも見捨てられた存在」との窮状を訴えた内容でした。工商会として何か出来る事がないか模索し、何度か面談しました。しかし日本軍属会も数団体あり、要望もいろいろで、纏めて意見を出すとの事でしたが、その後連絡がなく、小生も帰国しました。当方の誠意は理解いただけたようですが、高齢の方々ばかりだっただけにその後どうなつてくるか気掛かりな所です。

挨拶

藍 進明(昭和三十四年商院・台湾出身会員)



拝啓 先ずは日台校友の親睦に尽くされている先輩の方々に、ありがとうございます申し上げます。

さて、日台稲門会第一号会報の発刊が企画されている由、小生に投稿のご依頼を頂きましたので、筆不精の私ですが、この原稿をお送り致します。

私は台湾台中の出身。早大商研修士課程終了。東京千代田区で国際貿易商社の代表取締役社長を勤めています。早大台湾校友会で戦後派世話役を務めたことから、台湾校友会と千代田稲門会の姉妹会を仕立てたことがあります。

私は早稲田大学に学んだことを誇りと思ひ、校友の皆さんと一緒に「われらが母校の名をば讀めん・・・」を歌うのが楽しみです。

日台稲門会に加入したのは四年前のことですが、内容が豊富で立派な会報、と思つています。もっと多くの台湾留学生が入会すると良い、と感じており、私も何かお役に立つことがあれば尽力したいと思つています。第一号会報の発刊、おめでとうございます。

敬具

日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘(昭和34年商研卒)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

日本李登輝友の会神奈川県支部長

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

高座日台交流の会事務局長

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

早大日台稲門会幹事長

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>

今号も会員の皆様から台湾への熱い思いのこもった原稿を頂きました。

李登輝氏の哲学を日本の政治に

大山 高明 (昭和四十三年商卒)

『私がかつて「台湾人に生まれた悲哀」を感じつつも、やがて「悲哀の歴史もつゆえの幸福」へと考え方が変わっていった理由を説明したい。』——これは「台湾の主張」という著書の「まえがき」で李登輝總統が述べた言葉である。読者も、最初の「台湾人」という部分を、例えば「人間」や「日本人」と置き換えてもその意味は充分に通じることがお判りかと思う。人や国が生まれ、与えられた環境の中で成長し、経験や勉強を積み重ねた末の言葉として誠に重い哲学的意味を含んでいる。万物流転無常の中で、苦しい過程があつてこそ人にも国家にも、幸福が来る、ということなのである。

台湾の悲哀の歴史には十七世紀のオランダによる三八年間の統治、その後清王朝による征服、更には旧日本帝国による植民地支配も含まれている。また後藤新平民生局長という卓越したリーダーによる八年間の統治もあつた。

現在両国の間に正式な国交は結ばれていないが、台湾から日本への訪問者は平成一九年で一二八万人、日本から台湾へは一六六万人に達している。また日本の百以上を越える市町村の自治体が観光誘致のために

台湾語でを実施しているのが現実だ。更に台湾は空前の日本語学習ブームに沸いており、日本語能力試験受験者が昨年は五万五千人で人口比では世界一となっている。

この熱い両国の友好関係を悲哀の歴史に結び付けるわけにはゆかない。日本のエネルギーの九割以上が南シナ海から台湾・フィリピン間のバシー海峡を抜けて日本に運ばれているのだ。中国はその軍事予算の増強に伴い、南シナ海の海洋戦力の強化に邁進している。日本が台湾と協調して両(南と東)シナ海に楔を打ち込むことが、アジアの平和と安定に寄与することは言を俟たない。

今こそ李登輝氏の哲学を日本の政治にかさなければならぬ時であろう。
(日本海事新聞社 代表取締役)

祖父、父そして私の台湾

川村 順一 (昭和五十四年法卒)

私は昭和三〇年に神戸で生まれました。その後、三歳の頃に東京に転居しました。転居先は、世田谷区宇奈根町というところでした。

当時、ここには引揚者寮があり、両親と姉、弟とわたしの家族五人が数年間暮らしました。そこには、戦後海外から引き上げて来た人々が住んでいました。多くが、中国、朝鮮からの引揚者でした。台湾からの引揚者は少なかつたようでしたが、互いに支え合つて生きていました。わたしが、台湾を感じたのは、このときからだつたと記憶します。

わたしの両親は代々鹿児島ですが、両親とも台湾で生まれて、戦後日本に引き上げてきました。日本に帰国したら、すでに先祖代々の土地は無くなつていたので、祖父を含め、引き上げた多くの親戚が、神戸に移つたのです。何故神戸に身を寄せていたのかは、小さな疑問として、私の頭の中に密かにに居座っていました。

司馬遼太郎が、「台湾紀行」を執筆する時、当時、週刊朝日の編集長をしていたわたしの親類が、司馬遼太郎の台湾での取材に同行しました。そこで出会つたのが老台北と蔡焜燦さんです。

このインタビューで、蔡焜燦さんが語つた故郷の清水公学校の話の中で、当時の校長だつた川村秀徳の名が出たのです。それが私の祖父です。

これが縁で、蔡焜燦さんと父の交流が再開したのです。父川村秀綱は、生まれ故郷の台中の役に立てばと、台中会の会長を務め、台湾と日本の交流に努めました。わたしは、父から台湾の話聞く度に、台湾に行つてみたいという思いを深めるようになりました。

二〇〇二年一月、奇遇にも台湾の企業に転職することになりました。

四七歳を直前に、転職に不安もありましたが、ようやく台湾と繋がつたという喜びは格別でした。

台湾との往復が始まり、転職の二ヶ月後に蔡焜燦さんに初めてお会いしました。父の話によく出ていた著名な親日家の蔡焜燦さんを前に、感激の涙が出たのを覚えています。

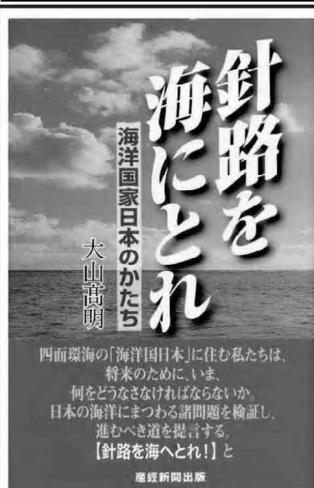
日本海事新聞社社長・大山高明著 (日台稲門会会員)

海洋国家日本のとるべき針路をあらゆる角度から網羅検証!

- 1章 日本人は古来、海の民だつた
2章 海洋国家としての歴史をかえりみる
3章 海運業が日本を支えている
4章 世界造船王国への再チャレンジ
5章 港湾の変革が始まる
6章 漁業の将来を切り拓くカギ
7章 海洋の資源は無敵だ
8章 海洋の環境破壊は地球を滅ぼす
9章 海の守りは大丈夫か
10章 今日でも海賊は跋扈している
11章 海洋戦略なき日本を憂慮する
12章 海洋教育が日本人を変える

産経新聞出版 定価1470円(税込)

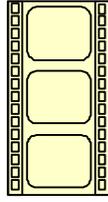
ご注文はお近くの書店または http://www.sankei-books.co.jp から



この時、わたしは、あの疑問を蔡焜燦さんに投げかけました。「何故祖父たちは神戸に住むことになったんでしょうか、」蔡焜燦さんの答えはこうでした。「神戸は台湾人が多く住んでいるから、教え子たちがおしこいちゃんを呼び寄せたんだよ、」。これで長く抱いていた疑問がようやく晴れました。そして、蔡焜燦さんは、「順一君のお父さんは、学生の頃、スポーツが良く出来た。とても格好良く光っていたな〜」。

それ以来、蔡焜燦さんを「蔡おじさん」と呼ばせて頂いています。

以上



台湾への思い

佐藤 喬 (昭和三十四年商卒)

編集氏より、台湾について、何か一文を書いてくれとの手紙をもらい、色々考えてみたが、そもそも湾生でもなければ、仕事上で彼地に何年も滞在したこともない人間が、何故日台稲門会の会員になっているかについて、いささか説明したいと思う。そもそもその発端が亡き土井先輩と茅ヶ崎で、さして酒をくみ交わした時、談、たまたま台湾の話になり、台湾の国情、民族、芸能、風土、歴史等、多岐にわたったが、その中で、小生が台湾の文学について、思いのたけをのべたところ、土井先輩曰く、そういうところからかといえは、異なった視点の間も会員になってももらいたいということだ、

この会に入れさせて頂いた次第である。台湾は若い頃より一種の郷愁をもって我が心の中に存在していた国である。ノスタルジア(郷愁)という言葉は、どこかへの帰属意識がなければ存在し得ない。例えばドイツの作家ヘルマン・ヘッセに「郷愁(ペーター・カーメンチント)」という作品があるが、それは、彼が、ドイツという国、民族に対する郷愁を語ったものではない。彼の詩人としての資質が求めている、詩人の魂が安らげる国、存在を認められる国、そういう国に対する帰属意識から生れる郷愁であるうかと思ふ。

台湾という国に対して、小生が郷愁を感じるのには、そこに小生の心に照応する文学があるからだと思ふ。文学は心を語る。それを読むことは、その心を知ることである。台湾の人々が書いたもの、片々たるいくつかの作品しか知らない小生であるが、(いまだ勉強不足で)そこに小生の心が希求する、帰属したいと思わせる世界があるのでないかと思ふ。

「その国の人を知るには、その国の文学を知るに如かず。」という言葉がある。台湾その言葉を聞くだけで、郷愁が心の中に湧きおこる。

台湾よ、いつ迄も我が心の中でかくあれかし。

「深まる私と台湾との交流」

山本 賢一 (昭和四十三年一法卒)

私が最初に台湾を訪問したのは一九八七年のことです。訪問の目的は観光でした。

当時の私の台湾に対する認識は、隣の島国である台湾というところはどんな所だろうという極めて素朴なもので、ただ表面的に見たという段階に止まっていました。

その後、勤務先の調査部で「日本の安全保障」を担当し、中東のイスラエル問題について調査研究するといった経験が積み重ねるごとに日本と台湾の関係が徐々に見えるようになりました。また、ある時期、中国の上海で企業経営に関する現地調査を実施した折、現地に進出している台湾系企業が存在を知り、台湾に対して「もっと知りたい」という強い思いを抱くようになりました。東京在住の時期、交流協会を訪問して台湾に関する情報を収集するというのもいたしました。

さらに、台湾の歴史にも興味を持ち、いくつかの書物を買って求めました。すると、いままでも知らなかった事実が目の前に忽然と姿を現し、ますます台湾のことが気になりました。

そこで、数年前、「台湾の実相」という表題で台湾史を自分なりにまとめることになりました。このことを契機として、関西大学の石田教授(故人)が主催していた「台湾史研究会」に参加することになり、さらに「大阪日台交流協会」にも参加することになりました。

台湾を知ること、日本を知ることであり、アジア情勢、中国情勢を知ることに通じるのだということを実感しております。東アジアの安定と繁栄を希求するためにも、もっと台湾との交流を深めたいと願う今日この頃です。

(神戸簡易裁判所 民事調停委員)

慶祝 日台稲門会第11号会報発刊

電線の最高接続法
“エキゾウエルト”
(テルミット溶接)

応用分野

- 接地電線
 - 大電流母線
 - レールボンド
- (JR東日本採用中)

集集電工業股份有限公司

董事長 簡 燦 雲

(昭和20年 理工学部電気卒)

台湾 台北市大安區師大路93巷18號1F

TEL : 886-2-2364-2200

FAX : 886-2-2364-2929

統一編號 : 09411969

新規事業の立上げと早稲田精神

小林 保雄 (昭和四十六年社会学卒)

平成十五年三月に私は三十二年間お世話になったセイコーエプソン(株)を五十六才で定年退職し、新会社を設立した。遡ること十年前の平成六年(一九九四年)にエプソンの台湾法人に責任者として赴任した。当時アジア航空の専務であられた白鳥様の知遇を得、その縁で新会社の監査役をお引き受けいただいている。不安と希望の中の起業であったが、既に五年余経過し、事業もやっと軌道に乗りつつある。偏にご支援いただいた日本、台湾の先輩、先達諸氏のお陰で、感謝の念で一杯である。

私は信州人である。信州人は理屈っぽく、協調性に乏しいと良く言われる。母校の諏訪清陵高校や早稲田大学は吉田松陰の“千万人とも雖も我行かん”をむやみに標榜する似た校風で、私もどっぷりとそんな中で感化された為か、自分らしい生き方に割とこだわり、これが五十六歳にして起業という向う見ずな再出発になったと言っても過言ではない。

還暦も過ぎ、多くの友人達は悠々自適とばかりゴルフや温泉巡りに精を出している。一方私は多少のやせ我慢もあるが“さて、これからだ。七十歳まで現役だ。”の心意気である。普通の方々から見れば変り種と思われるかも知れない。仕事は半導体などのハイテク製品の開発設計や役務の台湾や中国へのアウトソーシングで、月一回は台湾や中国(主に上海エリア)に出張している。上海では成長著しい活気の中で、又台湾ではまったりとした時間の流れの中で、ビジ

ネス、ゴルフ、中華料理での宴会など刺激のある楽しい日々を過ごしている。社名も日本と中華圏との懸け橋にならんとする、という意味でエー・リンク(エーはアジアの会社ではあるが将来益々強くなるであろうこの両者の絆とその発展にいくばくかの貢献ができればと考えている。



エー・リンク株式会社
〒182-0002 東京都調布市仙川町1丁目8-4
フェアリービル202号

TEL 03-5315-1020 FAX 03-5315-1023
<http://www.alinkcorp.co.jp>
代表取締役社長 小林 保雄 (S46年社会学卒)

日本と中国、台湾を結ぶエレクトロニクス・エンジニアリングのソリューション・プロバイダー

- 台湾半導体製品、ディスプレイ関連製品及びIT関連製品の日本企業への紹介
- 半導体レイアウト設計のアウトソーシング
- 日本と中華圏を結ぶコンサルティング

古びたるわがからだにも 春の畑一穂(いっすい)の 青き麦の触れたる

高橋 賢次 (公友)

今般、斎藤様から「日台稲門会」 第十一号会報発刊について寄稿をとお話頂き、会員の方々の様々な記憶を引き寄せると、定期的な手紙等の交換をさせて頂

ている方、そして、私の人生観に様々な形で影響し現在に至っている人など、様々な交友があるものです。ところで、寄稿とお話を伺い瞬時に、西村やよいの一句を思い出した所であります。

私は、「古びたり・・・青き麦の触れたる」、こうした自身を置く状況を長く、そして、確実に刻みながら、私は人生を進んで行きたいものだと思つておられます。しかしながら仕事、私生活共に足早に走って来たように感じています。

最後に、「青き麦の触れたる」ように、その時、時間を大事に進んで行きたいものだと感じています。

台湾ゴキブリ奮闘記

橋本 紀明 (昭和五十四年政経卒)

私は九五年から九九年まで台北に滞在し、その後中東に出て昨年日本に戻りました。稲門会には出戻りですが、よろしくお願ひします。台湾といえば、人々の優秀さ、面白さと同じくらい昆虫や動物が私の頭の中には印象深く残っています。今日はその話をします。

学生時代、今はなき田無学生寮の食堂に出たゴキブリを二〇円玉で仕留めたということがきっかけとなって彼らを見ると殺さずには気がすまないという悪い癖がついてしまいました。日本のゴキブリはすばしこく逃げ回るため、闘う(?)には十分なのですが、台湾のゴキブリは大きくかつ堂々としてるので、当方がその気になっても相手は小生の存在すら気にもかけませんで

した。そのため、私も次第に闘争意欲がなくなり、逆に夜店などで彼らを観察するのが楽しみになってしまいました。しかし、そうはいつでも所詮ゴキブリ。家の中では敵です。最初の頃殺虫剤を使いましたが、ガスを吸ってしまい、それ以降は新聞紙を丸めてエイヤーとたくようになりました。日本では新聞紙での成功率は限りなくゼロに近いと思いますが、台湾では八〇%の確率で仕留めることが出来ました。二回目に引越したアパートでのこと。ある夜、家の玄関ドアを開けると、暗闇の中になにか殺気のようなものを感じました。強盗だったらどうしようと、少し怯えつつ明かりを点けるとなんと白い壁に大きながじつと動かず、こちらを見ているではありませんか。さすがの私でも不気味でした。もちろんそのときもつさに新聞紙をつかみました。一回ではダメだったのでつい二回三回とたくと、相手は足をばたばたさせながら、『俺はお前の家にとつと寄つただけじゃないか。それをいきなり叩くとは・・・』と恨めしそうに叫んでいるようでした。なんと相手は陽気な無抵抗主義者。当方は武器まで使つてとどめをさそうとする輩。いきなりたくのは少し卑怯だったかなと思いつつ、こいつも悪い相手に見つかったために一生が終わったのなかつたら、『城之崎にて』の文章をふと思ひ出してしました。志賀直哉もイモリを殺した時こんな気分だったのだらうなと思ひ、後悔しました。それ以降ゴキブリの息の根を止めることに快感を覚えなくなつたのはもちろんです。あれから一〇年以上。彼らは少しは動きが速くなつただろうか？

もっと愉しみたい 台湾

下中 幸雄 (昭和五十一年商卒)

私は一九九六年三月に赴任し二〇〇〇年三月までの四年間台北に駐在しましたが、赴任早々大陸から台湾海峡に向けミサイルが発射され、それまで日本でどっぷりと平和ボケに浸り弛緩していた精神が、にわかには緊張を覚えながら駐在生活のスタートを切ったのを昨日のこのように思い出します。

とはいうものの、会社をはじめ多くの台湾の皆さんの温かい人柄、多種多様な美味しい料理、病み付きになった紹興酒に烏龍茶等々、家内と共に台湾生活を楽しみ、台湾文化を満喫しました。瞬く間に四年が過ぎ帰国命令が届いた時、「私だけでも暫く台北に居ていいかしら？」と真顔で聞く家内の顔が忘れられません。私自身もできることならもつと居たかった・・・

日本に帰っても慣れ親しんだ中華料理の味が忘れられず、年に一、二度、台湾を訪れており、今年も三月九〜一二日、グルメ&ゴルフを堪能してきました。駐在時以来の好朋友三人(台湾のオヤジ、老師、兄貴)と卓を囲みましたが、今回のトピックスは何と言っても総統選で、あの熱気に満ちた投票直前そのままの雰囲気です。侃侃諤々、そして乾杯、乾杯で夜が更けました。

新装なった「故宮」に触れるにはスペースが足りませんので割愛させていただきますが、最後に、「林口球場」「北投国華球場」の小姐の対応の良さはどうなったのでしょうか。びっくりするぐらい品質向上が図ら

平成20年4月1日(2008年)

れましたね。これは必見です。もうひとつ、風の噂に聞き及んでいました早慶ゴルフの惨敗続きについて、(台湾大正)篠山さんから連敗阻止を伺いました。ご同慶の至りです。因みに私が参加していた当時四連勝したことを懐かしく思い出しました。

(台湾藤澤薬品OB)

『台湾と私』

吉本 正明 (昭和三十四年文卒)

私の手許に表紙が濃紺の数次旅券が残っています。

発行年が一九六八年六月、現役時初めての海外出張(台湾・香港)で取得致しました。台湾入境が同年六月三日大阪伊丹空港から台北へ華麗な外観の圓山大飯店をかすめるように松山国際機場に着陸、機材はDC-8。当時は国際線・国内線として空軍が共用使用。旅客ターミナルビルには兵士、滑走路の対面に迷彩塗装の軍機が掩覆壕や迷彩網に覆われて駐機している様子、Immigration check に戒厳令下の厳しい島事情を肌身に感じました。

訪問先の日系会社で手配していただいた車でホテルに向う敦化北路は台塑大樓と向いの中泰賓館が目立っているだけで今の賑わい程遠い風景。又ロータリー交差点、官庁等の壁面には「大陸反攻」「自強* * *」「* * *光復」「反共防衛」「防諜* * *」等の四文字熟語のスローガンが目飛び込んで来ました。

幸い初海外出張での商談(フロント設備)は客先が日系会社と云う事もあって受注成

功、この案件が基になり以後台湾商談訪問機会が多くなり、七〇年代以降の台湾産業界(主に家電・自動車・化粧品・繊維品)の発展に寄与出来たのではと自負すると共に個人としても台湾人を知るほどに「良き隣人・友人」となりました。

訪台入国時での印象深い出来事は、七二年九月日中国交正常化に伴って、五年以降の日華平和条約が破棄され日台断交、九月一七日日本政府特使として椎名自民党副総裁が訪台、当日私も訪台、入境検査を終え到着ロビーで学生主体の抗議デモ隊に遭遇取り囲まれ止む得なく無人のJAL(まだJAAの代行前)カウンター内に逃難、頭の上を生卵が飛びカウター越しに罵声を浴びせられ(意味不理解でしたが)一時間余出るに不出るの経験を経験しましたがデモの連中は決して暴力行為に出なかつた事が印象に残っています。

八七年戒厳令解除、その年秋の大幅な外資に対する為替管理法緩和・外国人投資制限緩和(それまでは台湾法人に四九%以上出資不可)を活してJV現法/一〇〇%自己出資現法の設立を検討、八八年秋に認可申請、八九年春現地法人設立初代現地責任者として赴任、六月天安門事件連日衛星TV(CNN・BBC・NHK・BS等)で現地情報を収集CNN・BBCの映像とコメントと北京発の映像・コメントの大きな差異に戸惑いました。

現法公司经营には一二年携り、八八年頃より新竹科学園区を中心に急速な発展を今も続けているIC関係の有力台湾企業にクリンルームプラントの設計施工でIC関係産業界の発展を肌と感じてきました。

六八年初訪台から今年で足掛け四〇年

余の台湾との付き合いは多岐に亘って「生きてゆく知恵」とKnow-howを学ぶ事が出来た麗しの島と感じています。

注記

*当時の旅券には北朝鮮・北ヴェトナム・東ドイツ・中華人民共和国への入国制限が記載されています。(時代の推移をかんじます。)

*椎名特使は東京から私は大阪(伊丹)から特使より三〇分早く到着しました。日中国交成立に対する抗議のデモで特使の到着時間に合わせた行動でした。

台湾に来訪する日本人に対する九〇日間の査証免除措置について

台湾当局は二〇〇八年二月一日より、台湾を訪問する日本人に対し、九〇日間以内(到着日の翌日午前〇時から起算)の滞在については、査証を免除することになりました。九〇日間の査証免除による滞在については、滞在期間の延長は認められておらず、これに違反すれば罰則金が課せられた上、退去処分となります。

またこの措置は、観光、商談、親族訪問若しくはその他就労に至らない一般的社会的事情等により台湾を訪問する日本人のために実施されるものです。

入境の際は、旅券残存有効期間が三ヶ月以上の日本国旅券、また、復路航空券若しくは第三国への航空券を所持している必要がありますので、注意下さい。

なお、従来、台湾側は日本人に対して、三〇日間以内の滞在については、査証を免除しており、今回発表された措置はこれを九〇日に延長するものです。

母校硬式野球部が台湾を訪問、親善試合を戦いました。当会では特に特派員を派遣しましたので、その記事をお送りします。

野球部台湾遠征観戦記

一色 徹(昭和三十九年商卒)

明日に第一戦を控えている三月一日日曜日、観戦子は天母棒球场(野球場)を訪れました。高級住宅地として日本人が多く住むここ天母地区は、台北市の繁華街の一つである国賓飯店付近からタクシーで一分、二〇〇元(七〇〇円)くらいの近近にあります。隣にはアパートの高層屋があり、三越もごく近くに二三年前にオープンしたという周囲の環境ですから、坪当たり単価は東京ドームにも劣らない高さでしょう。またこの棒球场は、同じ市立ということもあって、第二戦で戦う體育学院(大学)の運動場でもありますので、相手には「地の利」があるわけです。

入り口で、同行した台湾棒球協会監事の校友と共に江正殷早大国際部副部长(日台稲門会幹事)と落ち合い、球場の中を見ました。江副部长はこの野球部台湾遠征の根回しや引率に加えて、早稲田大学台北事務所開設準備という大仕事を抱えて八面六臂の大活躍をしている最中でした。そんな中でも彼は、台湾とはいえ棒球场は吹きさらしの風が強いということで、ベンチの監督用に座布団を二枚用意して管理員に預けるという、細やかな心遣いを忘れられない人でもありました。

さて土曜日の第一戦の相手は文化大学です。このチームは、先日までオリンピック予選試合に出場していた台湾代表チームに選ばれた選手が二名いるという強豪で、一昨年の大学リーグでは優勝、昨年は二位になり、早稲田を破るとしたら二戦目の體育学院よりもこちらの方だろうと現地関係者の間では高く評価されておりました。

試合前の練習のときに、ミーハーである観戦子は、斎藤祐樹の16という背番号を持参した双眼鏡で探しまわりましたが、その番号はどこにも見当たりません。去年春の早慶戦では16番が大活躍で優勝に貢献したのにオカシイなと思いつつ、ホームベース上で整列して挨拶をしているナインの背中を見ましたが、ここにも16番はいません。

お目当ての一つがないいなあと少々がっかりしていましたが、なんのことはない、斎藤祐樹は今日のこの試合から背番号が1に変わっていたのです。野球関係者やマスコミでは知られた事実だったらしいのですが、観戦子は全く知らなかったので危うくその役目を果たせないところでした。

一塁側のスタンドには台北稲門会や台湾校友会のメンバー、日本人駐在員とその家族、留学経験のある台湾人カップルなど七、八〇〇人が陣取り、特大の紙メガホンでワセダ、ワセダを連呼していました。目を凝らすと、交流協会池田代表ご夫妻、前台湾校友会謝南強会長ご夫妻も仲良く観戦しておられました。

行政書士稲門会山下政行副会長(元応援団長)もはるばる日本から駆けつけてくれ、その「美声」による校歌合唱や応援の指揮は、神宮球場もかくやと思わせる見事なものでありました。



“座布団サービス”で監督もご機嫌だったのか、先発は人気の斎藤祐樹。一回から五回まで見事に相手打線を封じ込めました。コントロールが定まらなかつたり、ヒットを打たれたりした場面もありましたが、ランナーを出してからの投球術が彼の真骨頂で、点を与えない頭腦的なピッチングを台湾でも披露してくれました。

ただ味方打線が湿りがちで、序盤にエラーがらみの三点を入れてからは快音が聞かれず、中盤以降はむしろ文化大学が押し気味に試合を進めていたような感じがしました。しかし結果は三対一でぶとく勝利を収めました。沖縄キャンプから台湾に直行し、昨夜は亜東関係協会主催の歓迎パーティーに出席したので、その疲れが残っていたのででしょうか。若い日ごろ鍛えているので一晩寝れば元気が取り戻せる彼らだとは思いますが。

リンカンゼミナール

“本物の実力”をお子様にご

個別指導進学塾・外国語教室

代表取締役 國方 隆(昭和38年法学部卒)

TEL 042-767-2881 FAX 042-767-2882



リンカングループ
RINKAN GROUP



試合が長引いたので、日本人学校での野球指導を含めた交歓会の開始も大幅に遅れましたが、学校では大勢の児童や父兄が待っていてくれ、交歓は大成功でした。選手も試合場や一般ファンに囲まれているときは全く違う、若者らしい笑顔が浮かべて児童に手ほどきをしていいお兄さんぶりを発揮してくれたので、早稲田ファンが大勢生まれたことは確実です。OBとしては嬉しい限りでした。

この日のウェルカムパーティは、早稲田大学台北事務所の入居する予定の新光人寿(生命保険会社)トップ、呉東進理事長は校友(ビル一六階で開かれました。予定よりも大幅に遅れた開始になりましたが、今日戦った文化大学野球部員も礼儀正しく長時間待っていてくれました。到着した野球部員は、ユニフォームから今どき珍しい学生服に着替えており、みな短髪で髪を染めて

いるような人間もいず、その清潔な身なりに、さすがに我が早稲田大学野球部だと大変わうれしく思いました。

会場では、主賓とはいえ彼らは学生野球選手であり、混乱も招きかねないので、選手個々人にはサインを求めたり写真撮影を頼んだりしないでくれとあらかじめ注意がありました。

とはいえ、日本人学校の児童はそんな注意はモノともせず、サイン帳やボールを持って右往左往していました。二、三人に「誰のサインをもらいたいの?」と訊くと、予想していた「斎藤祐樹」という答えとは案に相違して「後藤選手」という返事が返ってきました。確かに後藤選手は、いかにも人気がありそうな凛々しい顔立ちの好青年でした。もつとも斎藤祐樹選手はその隣に常に上級生らしい背広姿が付き添っていてサインなど求めたら睨まれて追っ払われるような雰囲気だったので、誰もそばに寄らずに遠慮していたのも事実です。彼だけが特別扱いのような感じで、常に周囲の視線を意識してキチンとした姿勢と表情を崩さない斎藤選手には、好感を持つと同時にやや気の毒な感じがありました。

日曜日の二戦目は市立體育学院が相手です。この大学の出身者には、いまアメリカ大リーグのヤンキースで活躍中(一昨年一九勝)の王建民がいるので、非常に強いチームと思われていて台北稲門会でもそう聞きました。台湾棒球関係者の話では「王建民だけだよ、正直言って昨日の文化大学の方が強い」ということでした。

早稲田大学国際交流センター(通称台北事務所)開設に関する記者会見を終えたばかりの白井総長の始球式で始まった試合は、須田投手をはじめとする投手陣の好投と、

奮起した打線の活躍により六対〇で圧勝。早稲田野球の名を高からしめました。

スタンドでは昨日に続きファンが大勢詰めかけて、チャンスや得点のたびにコンバットマーチや「紺碧の空」が台北の空に響き渡りました。応援の指揮は台湾在住で元応援部の曾根さん、また日本人学校を卒業して現地の高校に通う女子高生牛丸さんの和太鼓のバチさばきは、昨日に続いてまことに鮮やかでした。

早稲田大学野球部は爽やかな印象を台湾の人々に残して日本に戻りました。

日台の文化交流は今回は野球というスポーツによって大いに成果を挙げました。準備や実行に協力された台北稲門会、台湾校友会のご苦労はいかばかりであったかと、心からお礼申し上げます。有り難うございました。

このあとチームは米国シカゴ大学との交流試合を経て春季リーグ戦に突入します。過酷な日程ですが、昨年に続いて素晴らしい成績を今年も残してくれることでしょう。そういう予感を感じさせた台湾での親善試合でした。

また、リベンジに燃える文化大学が、定期交流戦を申し出ているようです。これが実現すると、来年は日本で試合が開催されることになり、早稲田と台湾の絆はますます強くなることとなります。

日台稲門会も何らかの形で協力したいものです。

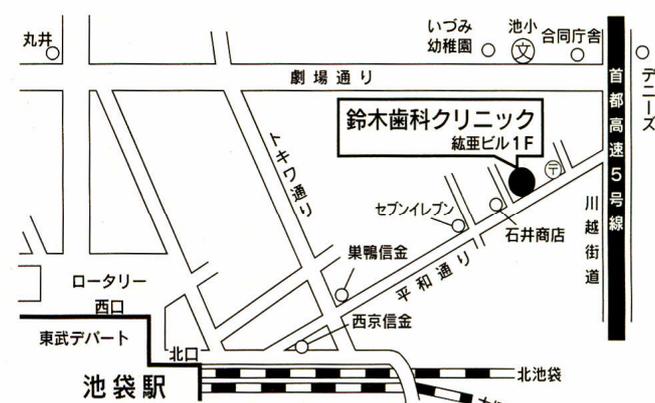
おわり
(日台稲門会幹事)



鈴木歯科クリニック
Suzuki Dental Clinic

東京都豊島区池袋4-25-1
絃亜ビル1F 〒171-0014
Koua Bldg. 1F
4-25-1, Ikebukuro, Toshima-city
Tokyo 171-0014 Japan
Phone: 03-5950-8241
Fax: 03-5950-8242

歯科医師/歯学博士
鈴木章敬
Akiyoshi Suzuki, D.D.S., Ph.D.



池袋駅 丸井 池小 合同庁舎 幼椎園 劇場通り 川越街道 首都高速5号線 デニース

鈴木歯科クリニック 絃亜ビル1F

セブイレブ 石井商店 東武アパート 池袋駅 北口 西口

母校硬式野球部を迎えた台湾サイ
ドの苦勞話、裏話です。本当に「苦勞
さまでした。

台湾だより

台北稲門会会長 川田 博幸
(昭和五十三年政経卒)

昨日三月二三日(日)夕刻、女房と台湾
に遊びに来ていた二人の娘たちを伴った高
雄への家族旅行から台湾新幹線で台北に戻
つてすぐ、バタバタと着替えし四人して基
隆で行われた結婚式に参加した。台北稲門
会幹事をお願いしている羽原さんの披露宴
である。お相手は留学時に知り合った台湾
大学卒業の弁護士である洪さん。まさしく
日台交流である。これには東京、沖縄、そ
して香港からも稲門会関係者がお祝いに駆
けつけてくれた。

その前日二三日(土)は日本でも連日大き
く報道されている四年に一度の台湾総統選
挙。馬英九氏が勝利し国民党が八年ぶりに
政権に返り咲くことになった。競い合った
現在与党の民進黨と国民党とは大陸中華人
民共和国との関係、台湾の将来像等の基本
方針・概念が極端に異なるので世界中から
注目された。選挙終盤にはチベット問題が
発生し勝敗の行方は混沌としてきたといわ
れたが、大差で馬氏が勝利した。民進黨は
一月の国会議員選挙惨敗につぐ敗戦となつ
た。八年前に、かつての独裁政党であつた
国民党から民進黨への政権交代を選出した
台湾国民は、また自らの意思で国民党政権
を選択した。政権交代は民主主義の証であ

り、一九八〇年代まで戒厳令下にあつた台
湾においてわずかの期間に民主主義社会が
作り上げられたことに驚嘆する。日本の国
益等は別にして、我々日本人は、大陸政権
では多分一〇〇年経っても実現しない、こ
のような民主主義社会で公正に行われた選
挙結果を受け入れ、今後の馬総統の舵取り
を注視するしかない。

三月は台北稲門会にとって大忙しの月に
なっている。二七日(木)には恒例の「早慶新
春聯誼会」が開催される。国籍、老若男女を
問わず早慶OB、現役生が集い交流する会
である。会の目玉は大物政治家等のスピー
チで、これまで李前総統、陳総統などにお
越しいただいた。どちらかというところ「台湾
派」の方が多かったが、毎年幹事を早慶が
交互に務め、慶應幹事の今回は国民党の重
鎮がゲストスピーカーに決まっている。早
稲田関係者はこれを打診された際少し複雑
な顔を見せた。国民党政権が決まった後な
ので、「台湾派」の方々の大量欠席が生じな
いか危惧される。事実、日本人の参加状況
も芳しくない。

一方、去る三月一五日(土)、一六日(日)
には、一八年ぶりの来台になる大学野球部
が台北において地元大学と親善試合を行つ
た。親善試合には応援団を結成し、神宮球
場さながらの雰囲気を出し好評を得た。当
初、応援の仕方がわからず、これを見かね
た日台稲門会のご協力で元応援団長の行政
書士稲門会山下副会長が来台、球場で指揮
を執っていた。

また、一五日(土)の試合終了後は台北日
本人学校で野球教室を開催し、その夜は早
稲田関係者による歓迎夕食会が行われた。
早稲田人氣が一気に高まり、将来の学友獲
得に多いに貢献したと思われる。これらも

各方面からのご協力・ご支援を得て成功裡
に終了した。

この場をお借りして、改めて御礼申し上
げたい。

これと時を同じくして、白井総長が来台
して一六日(日)の午前中に、台湾での「早稲
田大学国際交流センター」(通称：台北事務
所)の設立に関する記者発表を行った。こ
れまでも白井総長が年に数回来台するほど
交流の深い早稲田大学と台湾の交流が今後
さらに深まり、絆も強くなる。

台北稲門会は日台の架け橋になることを
会の目的の一つに活動している。羽原さん
の国際結婚、日本での総統選挙への関心の
高さ、白井総長や早稲田大学野球部の来台
など、このところの動きは日本と台湾の
関係がさらに強まり、相互理解が進んでい
る証である。

帰任した高橋会長の後を受けて二月に八
代目の台北稲門会会長に就任して早々これ
らに直接、間接的に携り、日本と台湾の、
そして早稲田と台湾のさらなる交流、相互
理解を求めている方々、このためにご努力
されている方々がいかに数多いかを肌で感
じた。

今後と
も、皆さ
んのご支
援・ご協
力を得な
がら積極
的な活動
を行って
いきたい。



早稲田大学野球部の台湾遠征

渡邊 義典(昭和二十八年政経卒)

母校野球部の台湾遠征が一八年ぶり(一
二回目)に実現しました。三月一五日と一
六日の親善試合と公式行事については、既
に台北稲門会のHPに川田会長がご発表済
みですので、私は校友会事務局として見聞
したことを書くことにします。

今回の遠征は一二五周年記念事業の一環
として、亜東関係協会、中華民国棒球協会
の招待によるものです。両協会とも早稲田
とは親しい関係にあることは「高承」とお
りです。

また、早稲田大学は台北事務所を開設す
る計画があり、新光グループ本社(南京東
路二段)の五階を借用することが内定しま
した。白井総長が遠征に合わせて台北に入
られ、新光へのご挨拶、事務所開設の記者
発表、第二試合の始球式に臨まれました。

台湾校友会・台北稲門会は歓迎準備に多
忙を極めました。交流協会へのご挨拶、日
本人会・工商会、日本人学校への協力依頼、
歓迎宴の準備、応援の動員等です。最大の
難題は応援指揮者の不在でしたが、北村元
会長のご尽力と日台稲門会石川会長のご英
断で、行政書士副会長の山下さん(元応援
団長)に「出張いただき」ことができました。
日台稲門会から旅費のご負担をいただき、
まことにありがとうございました。台北稲
門会の曽根さん(元応援部)と分担して指
揮をお願いすることができました。応援グ
ッズも急遽発注し、旗竿と太鼓は日本人学
校から借用、鼓手は和太鼓部のOGにお願
いしました。歓迎宴会場は新光の講堂を借
用し、料理は国賓飯店からのケータリング

と云う豪華内容です。一方、台湾の事情は二二日の総統選挙直前で、第二試合の一六日には一〇〇万人集會が開催されていました。また、一四日は台中で五輪野球の最終予選(台湾vs韓国)があり、台湾全島がテレビに釘付けとなっていました。

第一試合(一五目)は中国文化大学と対戦しました。文化大学は五輪予選に三人の選手が召集され、彼らは試合開始二〇分前によく天母球場に到着し、開会式にはナショナルチームのブレーカーのまま整理していました。しかもこの中の投手が先発し、初回にいきなり早稲田が二点先取の展開となりました。

五回まで斎藤投手が投げ楽勝かと思われたのですが、さすが強豪の文化大学は後半猛然と反撃しヒヤツとする場面もありました。結局3-1で勝利したものの、文化大学はリベンジに燃えて「日本遠征して再試合を」と申し入れたそうです。

観戦の交流協会池田代表は「早稲田が大勝しなくてホッとした」と、さすがの気配りでした。

山下さんの颯爽たる指揮の下、天母の空高く校歌と紺碧の空を斉唱しました。戦中世代の老校友も大勢駆けつけてくれました。

試合後、野球部と役員は日本人学校を訪問し大歓迎を受けました。歓迎式典の後、校庭で低学年から中学生まで三グループに対し野球教室を開催しました。生徒は大感激です。満員の父兄席からは声援とフラッシュが絶えませんでした。

その夜は新光本社の講堂で、校友、文化大学、日本人学校父兄などが参加して歓迎宴が華々しく開催されました。山下さんの指揮で校歌を熱唱しました。

一六日は総長の記者会見の後、始球式により台北体育学院との第二試合です。早稲田は投手力で圧倒し6-0で完勝でした。この日は曾根さんの指揮でさらに盛り上がり、整然とした応援に総長も感心しておられました。

スタンドにはどこから湧いて出たのか、若い日本人女性も多数詰めかけ、日本からの追っかけツアアのおばさんたち共々声援してくれました。母校の野球部の人気の高さに在校生も誇らしい気持ちです。翌日は、早稲田大学野球部に感謝するブログがいろいろと発表されていました。

さわやかな春風のように台湾を駆け抜けた野球部の一行でした。感動をありがとう！そして皆々様に感謝！

台湾校友会事務局

日台稲門会幹事会の花、羽原嬢が寿です。台湾での後見人を自認する北村さんがお邪魔(参列)しました。

羽原さん一〇年の恋を美らせ

洪さんとめでたく結婚

北村 友雄(昭和四十四年法卒)台北稲門会、日台稲門会を二度往復した羽原さんが三月三日、基隆で結婚式を挙げた。

今からちょうど一〇年前、早稲田大学法学部修士課程で学んでいた彼女が、台湾大

学大学院に交換留学生第一号として来台していた。どこかで台北稲門会のことを聞き、名簿に登録してくれていた。

当時はまだ、名簿がやっとできるくらいの組織で、会の行事にも一五人くらいが集まる程度であった。私や山田さんがいつも手分けして、名簿に名前がある人たちに行事参加のお願い電話をしていた頃である。

顔も見たこともない人に、電話をするのである。女性は少ないし、まだ現役である彼女はどうかかなと思いつつ電話をしたら、何も聞かないで

「はい、分かりました。参加させてください」

と一秒もしないでの即答であった。なんと早稲田のお嬢さんだろう、こんなに早



稲田を信じ、台湾好きな人は、私以上だと感じた。会ってみると、聡明で目がきらきらしていて、美人である。

その後半年で留学を終了して日本に帰ったが、帰国後日台稲門会に入会して目を見張る活躍をし、みんなのアイドル的存在になっていった。台湾からの留学生にも、アルバイトの世話や将来の相談など、お姉さんとして実によくめんどろを見た。

新郎の洪維徳さんとは、台大留学中に知り合い遠距離恋愛を続け、このたびのおめでたになったわけである。

洪先生は基隆生まれで台湾大学修士課程を終え、現在弁護士として活躍中であるが、さらに法律の真髄を極めるため、日本一橋大学の博士課程に行くことになっている。将来台湾を背負って立つ一人として、大いに期待している。

これも早稲田大学との縁がなければ、実現することはなかったであろうから、早稲田が取り持った国際結婚といえる。

今早稲田は日本の早稲田だけでなく、アジアの早稲田として再スタートを切ったばかりである。この時期にお二人の結婚がなされたということは、白井総長や小林法学部教授だけの喜びだけでなく、早稲田に関係する全ての人の祝福を受けていると言っても過言ではあるまい。





(台北稲門会)

もなく、ただ勢いだけで何とか司会の役目を終えることが出来た。実はこのパーティーで自分にとってもう一つ重要な出会いがあった。大学本部から理事の村岡功先生という方が出席されていた。すべての早稲田スポーツを統括するスポーツ科学学術院のトップである。パーティー直前に来賓スピーチの打ち合わせなどでお話させていただいたのだが、何と先生はこう仰るではないか。「私が体育会百自転車部の部長です。」えーっ!

「村岡センター、競技歴四年、県立岐阜高校出身の山田です。どうか自転車部へ入部させていただきます。」

チャンチャン。

台北稲門会ホームページのコラム欄に過去四年間のレースレポートを寄稿しています。自転車レースを始めてからこれまでの自分自身の変化と成長の記録です。駄文で恐縮ですがどうぞ一読ください。

<http://www.waseda.org.tw/jp/column.ep.html>

台北マラソン感想(完走)記

台北稲門会前会長 高橋 徹

二月一六日、前日のゴルフと忘年会の疲れも感じないで朝六時に家を出た。

台北マラソンの九kmを走るに当り、いつものジョギングパンツにTシャツ、その上からゼッケンを縫いこんだ主催者のINGのランニングシャツを着たが、気温一七度と少し寒いがしたので寒い朝にジョギングで着るウインドブレーカーを着込みタクシーで市政府前へ向かう。市政府前は人・人の波。ヤクルトのトラックの周りであらうろろする内、長田さんに出会う。六時半にヤクルトのブースの前に行く川田さん、曾根さん、山田さん少し遅れて鈴木さんが揃う。



市政府前の特設ステージではテレビカメラの前に何かやっておりお祭り気分を盛り上げる。その前の広場にはマラソン四二・一九五km、二一km、九kmを走る

人と見物に来た人で歩けないほどになっている。走る前にトイレに行ったがこれもトイレ車が四―五台並んでいるも七―八mの列が出来ておりトイレに行くのも一仕事であった。

六時四五分頃山田さんに促され皆揃って

スタートゲートの方へ向かうが、既に人垣ができて居りスタートゲートの二〇―三〇m手前で待機しているのがやっつとである。七時にスタートとなるもゆっくり歩きながら前に出るのがやっつとでいつの間にか皆とはぐれてしまうも、山田さんが飛び出していったことは確認できた。

ようやくスタートゲートにたどり着くと回りが走り出したので、その人の波に乗って走り出す。早い人遅い人が何しろ二万人も同時に走り出すわけであるから前後左右にぶつからず走ることが至難の業である。周りを見るといつの間にか知っている人は全く居らず、ひたすら人の波に乗って走っていく。

市役所から仁愛路をひたすら総統府に向かって走るも一―四を過ぎたところで救急車の音が聞こえ、誰か怪我でもしたのかと思っていると反対側をもう折り返してくる人の為、空けているためサイレンを鳴らしていた。早い人は九kmを三五分位で走っている。

自分では毎朝五km走っているの、五―六kmまでは問題ないがその後が未知の世界に入るため、飛ばし過ぎないようにして復光南路・建国南路を過ぎいよいよ折り返しの総統府が見えてくる。折り返し点前後に給水所があり急に皆のスピードが歩くほどに落ちたついでに水入りの紙コップをつかみ一口水を飲みリフレッシュする。再びマイペースでひたすら走る。反対側を一緒に走ることになっていた林森北路の小姐が走っていないか、注意して見るも走りながらであるとは知っている人がいても見つけることがなかなか難し、また、走っていると普段の形相とは変わってくるので判別が難しいなと考えていると七kmの表示が見えてくる。七kmの表示を見た途端、急に呼吸が辛くなる普段たばこを吸っている不摂生を悔やむ

も今更遅い。七kmから八kmがやけに長く感じ八kmを過ぎるともう市政府は目の前。この辺りから既に歩き始めている人が沢山おり、走るのに邪魔になる。まだ余力は残っている。ここでラストスパートをかけようかどうしようかと迷ったが、この程度の疲労であればこの後、恒例のテニスができると考えラストスパートは取っておくことにする。

ようやくゴールすると八時三分ちよつとである。これなら目標の七〇分は切れたと確信して皆のいるヤクルトのブース前に行く。やはり山田さんがトップで四三分ほどで走った。曾根さん、鈴木さん、長田さんが順番は分からないがその後にはゴールして一番年寄りの私が次ぎ、川田さんは少し遅れたが、昨年の七〇分の記録を大幅に更新して、全員が完走して無事ゴールした。

山田さんによると実際のスタートするまでの時間を考えると私も一時間を切っていると云われ目標の七〇分以内は達成した。(実際の記録は五九分一六秒) 私としては毎朝 四・八kmを三〇分か三五分で走っておりその倍の距離を同じペースで走るのは無理と思っていたが、やはり回りのペースに乗せられ走ってしまうものだと思いの乗せられやすい性格を再確認した。

今回の台北マラソン参加に当り、ヤクルトとして参加の手はずを一手に引き受けてくれた川田副会長、貴重品や荷物を預かり、写真を撮ってくれた川田夫人にこの紙面をお借りして御礼を申し上げます。

後日談として、マンシヨンの管理人にマラソンした後テニスとは「11の体力很好」とかおだてられるもその後体力の低下から一年に一度あるかないかの風邪を引いてしまい、鼻をぐしゅぐしゅ言わせながらこれを書いております。

ホンマオツエン

紅毛城—スペインの 台湾殖民根拠地—

(エッセイスト・昭和二十七年法卒)
木村 滋

台湾北部淡水駅から淡水河右岸を北西へ十キロ行くと、右手の小高い丘の上に赤れんが二階建の瀟洒な洋館が、碧空を背景にくつきりと浮び上る。

1626年五月、スペイン海軍提督アントニオ・カレニョ率いる大艦二隻・ジャンク12隻の艦隊が、フィリピン・ルソン島より基隆沖に来航、港口の社寮島^{シリアウ}をサン・サルバドルと命名、近くの海岸・丘陵に四砲台と天主教会堂を造営した。

カレニョの意図は二年前の1624年に、既にオランダが台南にゼーランド^{Zeeiland}・プロフィンシャルの二城を構え、バタヴィア・日本間の通商路を確保しているのに対抗するにあつた。

面白いことにカレニョ艦隊は水路安全な台湾海峡を通らず、風浪荒い東海岸を三日かけて今の三貂岬^{サムチャオ}に辿りついてゐる。サムチャオはサンチャゴの帰化語である。カレニョは何故遠回りをしたのか。否、遠回りをせざるを得なかったのである。

1588年、スペイン王フェリペ二世はカトリック諸国の盟主を任じ、新興新教国イングランドに侵攻し、あわよくば王位継承にまで介入しようとして、一

三〇隻、三万の兵を進発させた。無敵艦隊である。

迎え撃ったハワード指揮するイギリス艦隊八〇隻は軽快、俊敏な艦隊運動でこれをボーツマス、カレール沖で撃破。勝利に一役かつたのがオランダ海軍だつた。オランダは永年ハブスブルグ・スペインの桎梏下にあつて、所謂ネーデルラント独立戦争を戦い、1579年独立を達成したばかりだつた。

大西洋の制海権を失つたスペインはアルマダ壊滅を契機に、世界の植民地をオランダ、次いでイギリスに漸次蚕食されるのである。

台南オランダ、ゼーランド^{Zeeiland}城を避けカレニョは艦を西航させ淡水河を遡行占領し、サント・ドミンゴ^{Santo Domingo}砦を構築し、ここを拠点に日本への宣教と通商を企図したが、日本の宣教は許されず、シナ大陸からの農奴移入も捗かばかしくなく、フィリピン経営に専念することとなつた。

1938年、サント・ドミンゴ砦を廃棄、ついでオランダ軍の侵攻を機にフィリピンへ撤退した。

サント・ドミンゴ砦址の主人は1642年、オランダ。1662年、鄭政権。1683年、清朝。1867年、英国の永久租借権下の英国領事館。以下オーストラリア大使館、アメリカ大使館、1895年、日本。1980年、中華民国と変遷したが、それはその儘、海洋帝国栄枯盛衰の幻影である。

紅毛城が現在の形に再建されたのは何時のことか審らかでないが、れんがの積み方から推して英国時代ではないか。それにしても、一、二階奇麗に重層した赤れんがの七連アーチのテラスは、息をのむ程に美しい。(完)

御祝 早稲田大学校友会日台稲門会 会報第11号 発刊

台湾

萬國法律事務所

FORMOSA TRANSNATIONAL

Attorney at Law

創所暨主持律師 陳 傳 岳

Founder & Senior Partner John C. Chen

台湾台北市 106 仁愛路三段 136 号 15 階

15F, Lotus Bldg., 136 Jen Ai Rd., Sec. 3, Taipei 106, Taiwan

Tel: 886-2-2708-9883 Fax: 886-2-2755-6486

E-mail: john.chen@taiwanlaw.com

Website: www.taiwanlaw.com

早稲田で野球満喫

黄巧如

平成一九年度の日台稲門会定期総会にも参加させていただいた、黄巧如と申します。台中市の出身で、現在早稲田大学大学院アジア太平洋研究科MBAコースの二年生です。

二〇〇六年九月に早稲田に入学以来もう一年半が経ち、今年の九月に卒業します。一年間半の早稲田生活を振り返ってみると私は野球名門の早稲田で、野球のおかげでたくさん楽しい思い出を作りました。台湾で最も盛んなスポーツは野球で、私も野球が大好きです。台湾にいた頃、よくプロ野球を観ていました。二〇〇三年札幌で行われたアジア野球選手権も、北海道へ台湾チームを応援に行きました。台湾が韓国を破りアテネオリンピックの出場権を得たとき、本当に泣きたいくらい嬉しかったです。

早稲田に入ったとき、実は日本の大学野球があまり分からなくて、興味もなかったんです。初めて日本人の友達から野球早慶戦のことを聞いて、野球ファンであり早大生でもある私は行ってみても損はしないかなという軽い気持ちで、二〇〇六年秋の早慶戦に行きました。試合で私は最も感動を受けたのは観衆の応援です。その日内野席はほぼ満席状態で、みんなは試合中ずっと校歌や紺碧の空を合唱していました。その場面を見て、改めて野球の魔力を感じました。その一試合だけで、私は早稲田に在る間、毎シーズンの早慶戦は必ず行くことと決めました。去年、ハンカチ王子が入学し、友たちは、早慶戦に観戦する人きつと増えてチケットを手に入れるのは大変になる、と言

ってましたが、ラッキーなことに、留学センターは留学生のために少しのチケットを取ってくれたので、早慶戦を観に行くことができました。

東京六大学野球連盟の二〇〇八年春期リーグは四月一二日に開幕し、早慶戦の日程も決まり、五ノ三、六ノ一となりました。早大生としての最後の早慶戦観戦となりますため、私は今年もぜひ応援に行きたいと思っています。



台北、そして広島。夢のような早大野球部遠征に感動。

井上 浩(昭和六十二年法卒)

大成功だった早大野球部の台湾遠征。そして、その翌週には早大創立一二五周年記念大学野球交流戦として、広島で行われたシカゴ大学との交流試合。台湾から帰国後、広島に移り住んでいる私にとっても美に感慨深いものであり、ここにレポートさせていただきます。

台湾から帰国し、はや三年が経とうとしています。日台稲門会に入会させて頂いたものの、現在、広島勤務のため、なかなか活動にも参加できないのが残念です。しかし、日台稲門会会報や台北稲門会のホームページなどで皆様のご活躍を拝見しており、北村友雄元台北稲門会会長などからも台湾や早稲田に関する色々な情報も頂き、今も早稲田・台湾とのつながりを持って、ありがたい気持ちで一杯です。

そうした中、三月一五、一六日の早大野球部の台湾遠征は大注目でした。川田台北

稲門会会長のコラムや渡邊義典さんから頂いたレポートからも、大成功であった様子をおうかがい知ることができ、ご尽力された方々に感服しました。ただ、自分自身が、台湾にすることが出来ず、とても残念に思った次第です。

ところが、台湾遠征の翌週二三日には、なんと、早大野球部が広島に遠征してシカゴ大学と試合をするというではありませんか！これまた、びっくりしました。

皆様ご存知のように早稲田大学は創立一二五周年を迎え、一二五周年記念大学野球交流戦が行われることとなりました。対戦相手はシカゴ大学です。一九〇五年に早大野球部は日本野球史上初となるアメリカ遠征を行っており、一九一〇年から一九三六年までシカゴ大学と五年ごとにお互いに両国を訪問して、一〇回の交流試合を行っていました。そして、(これは私も今回初めて知ったのですが)、早稲田のスクールカラーであるエンジは、一九〇五年のアメリカ遠征当時のコーチであったシカゴ大学の元選手(ブレッド・メリーフィールドさん)からシカゴ大学と同じエンジのマークを勧められたことから、使用されることとなったそうです。今もシカゴ大学のユニフォームはエンジを基調にとってもかっこいいものでした。このように、早稲田とシカゴ大学とは、とても深い縁があるのです。

では、「なんで、その開催が広島で？」というのですが、広島市民球場は今年で五〇周年を迎えるのです(なお、現球場は今年が最後で、来年からは新たな球場が誕生します)。このため、地元の早稲田関係者のご尽力があつて、早大一二五周年と広島市民球場の五〇周年を記念して、七二年ぶりに広島市民球場でのシカゴ大学との記念交流戦が実現したのです。両チームの選手は、当日平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に献花さ

れたそうです。

試合当日は、あいにくの大雨で非常に寒い日でしたが、広島市民球場には約一万四千人もの観衆が集まり、地元新聞でも大きく取り上げられました。先発は、斎藤佑樹投手で5回を無失点、九奪三振の好投。打線も上本博紀主将が四安打を放つなど十九安打の猛攻となり、結果は十五対〇と早稲田の圧勝。ただ、シカゴ大学の選手にとっては、今回は飛行機の遅れなどで超強行スケジュールとなった影響が大きく、気の毒な感じでした。

その夜は、リーガロイヤルホテル広島で広島稲門会を中心としたウェルカムパーティが開催されました。両チームの選手は、寒い雨中の試合後で疲れていたと思いますが、広島風お好み焼きなどを食べながら、多くの参加者と和気あいあいと歓談されていました。私も、主力の斎藤投手や松下投手と直接お話しすることができました。

今回の早大野球部の台湾、そして広島への遠征は、台湾から帰国後、広島に移り住んでいる私にとって、実に感慨深いものでした。

現在、早大野球部は、應武監督をはじめ、上本主将、松下投手など地元広島出身の監督・選手が活躍されています。ぜひ、六大学の春季リーグで四連覇を果たしてもらいたいものです。そして、今回のようなスポーツを通じた早稲田と台湾やシカゴなどの海外交流が、これからも益々盛んになることを願っています。

最後になりますが、今回、私の拙稿を掲載して頂き、ありがとうございました。これから、どこにいても日台稲門会、台北稲門会・早稲田台湾校友会とのつながりを大切にしていきたいと思っています。皆様、今後ともよろしくお願ひ致します。

日台稲門会の活動より

2008年新年会

一月十五日(火)一八:〇〇より新宿中村屋本店「レザミン」にて開催しました。

今回は趣向を変え、スヴェトラーナ会友の歌とお話をメインに会員の親睦を図りました。

定刻神田幹事の司会で開宴、石川会長代行の挨拶に引き続き、昨年十一月二十二日に逝去された名誉会長村野賢哉氏を偲び全員で黙祷しました。その後、「長男の村野幸哉会員より故人へのご厚誼に対するお礼が述べられました。宴会は立食、パーティー形式で各テーブルでは留学生を交え早速歓談の輪が広がりました。

平成20年4月1日(2008年)

日台稲門会会報

宴たけなわの頃、大学での講義を終えた主役のスヴェトラーナ女史が到着、木村幹事による紹介の後、彼女のリードでロシア民謡を全員で合唱しました。彼女は自らのCDも発売しており、当日は「モスクワ郊外の夕べ」、「バイカル湖のほとり」、「トロイカ」等を素晴らしい歌唱力で披露してくれました。今回は留学生が六名参加しており、全員自己紹介後「月亮代表我的心」を若々しく歌い上げてくれました。会員からのスピーチに移り、奥様同伴で出席された前台湾研究所長西川先生、新会員の橋本紀明さん、宝塚造形芸術大学教授の川村順一さん、会報編集責任者の齋藤幹事等からスピーチが披露されました。料理も美味しく、飲み物も豊富で会員間の話も弾み、あちこちで主役のスヴェトラーナ女史や留学生を

囲んでの記念撮影も見られました。最後に当会の恒例となりました上野幹事の古式三本杓と閉会挨拶を持って散会しました。会員二〇名、留学生三名、計二十六名が参加し盛会でした。(事務局 小野間記)



日台稲門会ホームページ

日台稲門会ホームページがリニューアル中です。記事も最新のものにどんどん更新されています。是非「お気に入り」に登録し、マメにチェックしてみてください。ご意見や掲示希望の記事がありましたら、担当の一色幹事までご連絡がいます。

日台稲門会ホームページアドレス(URL)

<http://members2.jcom.home.ne.jp/ntai/>

一式幹事メールアドレス(E-MAIL)

issnki36@jcom.home.ne.jp

リンク先です

台北稲門会ホームページアドレス

<http://www.waseda.org.tw/jp/>

台湾稲門会ホームページアドレス

<http://www.waseda.org.tw/tw/>

早稲田大学ホームページアドレス

<http://www.waseda.jp/>

早大台湾研究所

<http://www.waseda.jp/prj-taiwan/>

萬國專利商標事務所

当所は1972年に創立以来、企業団体、大学の学生団体に知的財産権についての教育と指導を続けると共に、特許・商標出願依頼人に対して、電子、電気、半導体、ビジネスモデル、ソフトウェア、化学、医薬品、バイオ、材料、機械、日用品等の各分野における発明・考案・意匠・商標の権利化を始め、知的財産関係の研究、相談など質の高いサービスを提供しております。皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長・弁理士 陳 昭誠

台湾台北市 10044 博愛路 35 号 9 階

TEL: 886-2-2381-7099 (代表)

FAX: 886-2-2331-7068・886-2-2389-1188

E-MAIL: service@iplouis.com

WEBSITE: www.iplouis.com

メンバー：日本知的財産協会 (Japan Intellectual Property Association, JIPA)

アジア弁理士協会 (Asian Patent Attorney Association, APAA)

国際商標協会 (International Trademark Association, INTA)

国際工業所有権保護協会

(International Association for the Protection of Industrial Property, AIPPI)

世界知的財産代理人連盟

(International Federation of Intellectual Property Attorneys, FICPI)

母校関連情報を紹介します。先ず「早稲田大学大国際交流センター」開設、次ぎに「西早稲田キャンパス」の名称変更です。

「早稲田大学大国際交流センター」
(通称：台北事務所)

1. 本学は台湾との連携協力で最も実績のある大学です

早稲田大学は、戦前戦後を通して、数多くの台湾人卒業生を輩出しています。現在、各界で活躍する多数のOBが、早稲田大学台湾校友会(会長・董炯熙氏)、早稲田大学台北稲門会(会長・川田博幸氏)を組織し、幅広いネットワークを構築しています。また、台湾における多数の著名な大学、研究機関等との間で学術交流を幅広く展開し、様々な成果をあげています。このように本学は、大学間交流のみならず、校友会組織を中心とした産官学の連携を強化して来ましました。

昨年、本学は創立一二五周年を迎えて、『早稲田』から「WASEDA」へをグローバル化のシンボルとしてかかげました。今後、台湾の各界との間で、さらなる交流をめざし、台湾と日本の交流において、中心的役割を果たしていくことを目指してまいります。

2. 本学は台湾との間で具体的な取り組みをすでに実施しています

本学は、長年にわたり研究・教育の両面から台湾の著名な大学・研究機関と連携を進めてきました。例を挙げれば、二〇〇三年に台湾校友会等の協力の下、「早稲田大学台湾研究所(プロジェクト研究所)」を皮切りに、本学で全学共通科目として、台湾講座を開講しています。二〇〇六年度には台湾大学との間で双学位(ダブルデグリー)制度を実施しており、現在、他の大学との間でも可能性を模索しているところです。また、昨年、台湾工業技術研究院との間で、産学連携による技術開発を目的とした包括協定を締結しており、これを契機として、企業等も含めたさらなる産官学連携の強化を図っていききたいと考えております。

3. 「早稲田大学台北国際交流センター(台北事務所)」開設に向けた準備を始めています

早稲田大学は、上記事務所設置に向けて、以下の構想を具体化し、実施する所存です。(以下は割愛しました)

◎事務所予定地：新光人寿南京大楼(新光生命保険南京ビル)内 台北市南京東路一段123号

◎開所予定日：二〇〇八年七月を予定



「西早稲田キャンパス」の名称変更
について

二〇〇八年六月に、池袋〜渋谷間を結ぶ東京メトロ十三号線(副都心線)の「西早稲田駅」が、本学「大久保キャンパス」(東京都新宿区大久保三・四・一)の直下に開業します。

そこで、キャンパス名とその混同による来校者の混乱をさけるべく、二〇〇八年四月一日より「西早稲田キャンパス」(東京都新宿区西早稲田一・六・一)の名称を『早稲田キャンパス』に変更することとなりましたので、お知らせいたします。



会費振り込み口座のお知らせ

会費の振り込みにご協力ください。

銀行名：三井住友銀行(銀行コード0009)

口座店：上大岡支店(電話045・841・3131) 店番：566

口座番号：普通預金 6929095

口座名義：日台稲門会(ニチタイトウモンカイ) 川村淳一(カワムラジュンイチ)

※郵便振替口座記号番号：00138・8・69805
加入者名：日台稲門会

編集後記

日台稲門会の目的は、①会員相互の親睦を図り、②早稲田大学の発展に協力し、併せて③台湾との交流を深めることにある。然るに我が会報はその目的を充足・具現しているか、常にこの思いを内にし編集にあたっているが、今号も会員の皆様の温かいご支援に助けられ会報を纏めることができた。

兎も角、いつもは一六ページで納まっていたものが今号は一八ページとふくれあがった。母校硬式野球部の訪台親善試合という想定外のイベントがあり関連記事が増えたという事情はあるものの、これにより台北稲門会や台湾校友会との連帯が一挙に進んだと思う。ややスポーツ偏重ではあったが、台湾総統選、北京オリンピック、チベット問題等複雑な問題よりは会の目的に適っているのでは。

台湾は相変わらず難しい国際環境にあるが、国の在り方は徐々に変化している。それを理解しつつ、日台稲門会は台湾と早稲田の交流を軸に、台北稲門会・台湾校友会と手を取り合いその絆を刻んでゆければと思う。集まり散じて人は変われど、日台の関係は永久に築き続けたい。

最後に、初めて会報に投稿下さった皆様へ感謝するとともに、硬式野球部の親善試合を成功に導いた関係者の労を労いたいと存じます。

(昭和五〇年南卒・齋藤 晃)

WASEDA U 2008

祝・日台稲門会会報第11号発行

 <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 行政書士 稲門会 大嶋 武 〒352-0021 埼玉県新座市あなご三二一―一 TEL 048(472)3344 FAX 048(472)3344 携帯 090(3308)3304</p>	<p>株式会社武蔵野種苗園 相談役 上野 晃 司</p>	<p>早稲田大学 臺灣研究所 講師 岩 永康 久 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三二 早稲田大学研究開発センター1201号館 61号室 電話03(5272)6192 内線3010</p>	<p>早稲田大学校友会 日台稲門会 顧問 井 村 晃 也 東京都小金井市貫井南町五―二―一</p>	<p>日台稲門会 一 色 徹 神奈川県藤沢市鶴沼桜が岡二―三―二―一 E-mail: isshiki36@com.home.ne.jp</p>
<p>北 村 友 雄</p>	<p>日台稲門会幹事 神 田 正 治 E-mail: kanda0386@star.ocn.ne.jp</p>	<p>大和証券SMB C株式会社 制度商品部 次長 川 村 淳 一 〒100-6182 東京都千代田区丸の内一―九―一 グラントウキョウ ノースタワー 電話03(5555)3534 E-mail: junchikawamura@daiwasmbc.co.jp</p>	<p>加 藤 博 東京都小金井市貫井南町五―一四―一〇 電話042(3386)3973</p>	<p>小野間恒夫 神奈川県茅ヶ崎市南湖五―一五―五 電話・FAX 0467(833)2911</p>
<p>白 鳥 和 夫 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀二〇―五―二 電話0467(82)6884</p>	<p>日台稲門会・稲門乗馬会 齋 藤 晃 東京都新宿区新宿六―一五―一五 E-mail: akira_sj@hotmail.com</p>	<p>早稲田大学商議員 横浜校友会顧問 関東日華親善協会理事 近 藤 良 三 郎 横浜市港北区大尾町一四三―五三〇 電話・FAX 045(544)7536</p>	<p>早稲田大学 台湾研究所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三二 早稲田大学研究開発センター1201号館 61号室 電話03(5272)6192(内線3010) FAX 03(3220)2220 E-mail: xxchiang@waseda.jp</p>	<p>社団法人全国權大連盟理事・財産管理委員長 エッセイスト 木 村 滋 東京都世田谷区松原三二九―一―六 古河松原マンション604 電話・FAX 03(3221)7694</p>
<p>早稲田大学校友会 日台稲門会 渡 邊 光 治 千葉県市川市福栄四―一七―七 電話047(396)2196</p>	<p>華隆機器工廠有限公司 董事長 廖 朝 欽 廠址 台中市豐原市圓環北路二段三五九號 電話04(222)330212</p>	<p>真鍋藤正税理士事務所 高座日台交流の会副会長 日台稲門会監査役 真 鍋 藤 正 神奈川県大和市中央五―十二―五 電話046(264)3050</p>	<p>田 村 雅 司 (昭三十八政経卒) 東京都中野区若宮三―一―七 電話03(3333)7336</p>	<p>日台稲門会(会友) テンプル大学日本校講師 法政大学政治科科学博士 スウエトラナー・ヴァシリニク 世田谷区砧八―三四―一五―二〇―一 電話090-3506-7390</p>